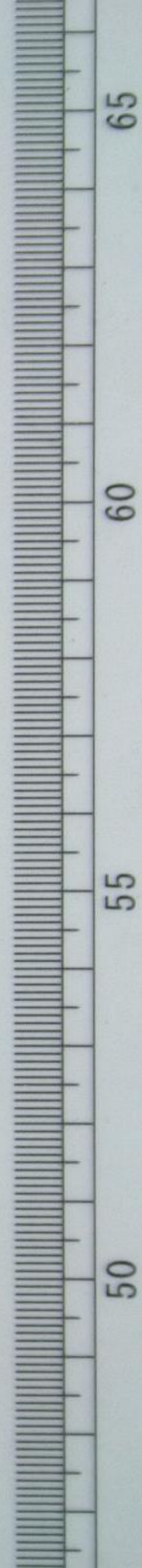


病中須佐美書
子姪禁俳諧書
上近衛公書

一

イ 13
907
41



4 13
907
41

第一集

甘雨亭叢書別集序

安中板名氏拜頌

甘雨亭叢書別集序

甘雨亭

亡友堀田益堂。天資英敏。頗好文學。與余為莫逆之友。如化乙己。余叢書第一集成。益堂見之曰。予夙有志于斯矣。既輯錄一百餘卷。名曰明遠館叢書。今子書已成。則無復須予之舉。乃舉而附之於余。余嘉其虛懷無我。謂之曰。國家有用之書。以國字

甘雨亭叢書別集

序

記之者極多。君盍輯而刻之。益堂首肯之。於是余舉所藏國字書數十種以酬之。無幾。益堂即世。其舉不果。豈不可惜哉。頃者余錄叢書中。官不允刊刻者數十部。名曰叢書外集。又續而輯其係國字者。名曰叢書別集。嗚呼。國字書之多。汗牛充棟。最難取捨。余之謏陋。何以堪之。為之慨歎者久之。益堂亦當拊膺于地下矣。

嘉永六年癸丑重三

節山 板倉勝明識



臣 岡村政徳 謹書

甘雨亭叢書別集

第一集

病中須佐美 一卷

上近衛公書 一卷

子姪禁俳諧書 一卷

日本養子說 一卷

非火葬論 一卷

父兄訓 一卷

古學先生和歌集 一卷

蕃山先生和歌 一卷 ○附保侶箴之圖

飛驒山 一卷

觀放生會記 一卷

檜垣寺古瓦記 一卷

人名考 一卷

准后准三后考 一卷

櫻之辨 一卷

櫻品 一卷

忠士筆記

一卷 ○附鳩巢與白石論土屋主稅所置

湘雲瓚語附錄 一卷

病中次佳若

病中須佐美

病中須佐美

室直清 著

昔漢の文帝露臺を作らんとて匠を乞はく其價を乞は
むひ一如百金を乞ふを奏しては乃ち百金を中民十家の産
なり吾今其臺を乞はくは十家の産を費せんと欲すは
了後其處臺を乞はくは其事今を乞はくは青史を照
し千歳の史蹟と爲るべし今の 大君御代を乞はくは初也
より聊さ其色の御好むを乞はくは御身の学程を乞はくは
物とて華奢を乞はくは天下の爲る財を惜まはくは漢文景子

十時書齋書列集 病中須佐美

ぬと〜ハ裁りあつた然るに近年米價賤〜下部の
凍餒の民多く幸ひ菜色を免〜
價あまりに儲〜微祿を賜る羣臣其祿を以り
〜衣服以下の諸費を以りて用〜困窮する
の〜を同〜頻り賑恤の御政あり〜昔より大
久〜るぬれい自〜世の風俗驕惰〜
妙〜唯奢侈を好〜富高大賈時勢〜
の權を擅〜に諸の物價〜米價
は〜俄〜諸價を倍〜又也

先〜今年より徳素の令御定めあり〜
〜去年徭月の末〜有司〜
〜巨萬の金を散〜微祿の事〜
府史胥徒の紛〜誠〜御事〜
〜後〜思貸〜面〜
〜御令〜偏〜上〜
〜志〜
〜

於此の志は深く已む者なく酒色もたぐり控へ衆をの
 ん好む身を控へしめて上の御恩を重くすまはしめ
 らるる人となりしに禽獸もたぐりぬし素より
 こと事なれぬ近年士の風儀日々に敗く廉耻の
 出るる事多しなればかゝる人ありて定むる
 こと老のひるむるや其事を何れか深くなげさて徒ら
 し物なきに筆もきくありむ防も此ての業たり
 こと世に利傳つてえん人何れか予を評し
 世を戒るとやいん又世に福とやいん其評人の
 樓後つた母より賢と妻より好めしはなり
 山は河をち編むるは河に保辛亥年正月十三日
 鳩巢老人後堂の草の庵に筆をてり

十寸五寸
 病中須佐美

病中須佐美終

公也遠公書

上近衛公書

柴野邦彦 著

近衛殿の内から紀伊守源重敏、幕府へ使はり
 しが邦彦邦彦ハはりやんか
 八かきくあふてまふ全福まふ何と
 位と云れあひ下問に恥ぢるや
 事を覺る同くやうさ又吐握の
 事さつりあふをり邦彦忠節の
 事さつりあふをり邦彦忠節の
 事さつりあふをり邦彦忠節の

上近衛公書

狄仁傑、元行仲と兼茲中の物々き、たの〜、又ハ
厚き仰の赤き中、手比とのまひ〜、少き〜、
ほけ〜、まうひの幸ぬ芽曝の御〜、
あや〜、あ〜、

人〜、く〜、ま〜、ゆ〜、ま〜、公家ハ文道を以て、武家ハ武功を以
て〜、ま〜、ま〜、勿論のゆ〜、ま〜、就中大臣、折衷のゆ〜、
む〜、く〜、徳義を以て〜、ま〜、ゆ〜、ひ〜、ま〜、朝家のゆ〜、
り〜、ま〜、ま〜、れ〜、ま〜、ま〜、春秋公羊傳、孔子色而
立於朝、則人莫敢過、而致難於其君、考〜、ま〜、文の執柄

三公〜、ま〜、ま〜、方徳を脩と義を以〜、ま〜、ま〜、君乃
俗の〜、ま〜、ま〜、ま〜、ま〜、叛臣、逆臣、百義、猥糝の兵を平
〜、ま〜、ま〜、其人を踏越〜、ま〜、ま〜、弑逆、無れ〜、ま〜、ま〜、
〜、ま〜、ま〜、其例、和漢、ゆ〜、ま〜、ま〜、漢
の代、ゆ〜、ハ級黜、忠直〜、ま〜、ま〜、吳楚七國の謀、及〜、
ハ唐の代、ゆ〜、ハ杜黄裳の清、廉〜、ま〜、ま〜、李師古ハ身
〜、ま〜、ま〜、ま〜、ま〜、朝中〜、ハ左、右門、省、光頼、卿の在、
〜、ま〜、ま〜、平治の、帝ハ、け〜、ま〜、ま〜、ま〜、
級黜、杜黄裳、光頼、ま〜、ま〜、ま〜、武畧、智、勇、鬼、谷、黄、石、

秘制の... 又鎮結る為秦楚燕趙の兵持
 ... 或ハ文墨の中...
 ... 只一筋の忠直清素...
 ... 暴逆叛乱の輩衛青霍去病...
 ... 武將を... 彼の...
 ... 徳義の... 廟堂の上... 衝を千里...
 ... 笏を端... 天下を泰山の安...
 ... 今抄家大臣の... 君の...
 ... 義色... 水...
 ... 千... 重...
 ... 忠... 打物...
 ... 朝家の...
 ... 君子所貴乎道者三。動容貌。斯遠暴慢矣。正顔色。斯近
 信矣。出辞氣。斯遠鄙倍矣。謹豆之事。有司存。と曾子
 の... 抄家大臣の...
 舎の... 勅... 目... 事...
 ... 法司の官人... 殿

ひふ程朱と漢洛の諸賢神々六經の中ふ釋老も源流
しるすも道にのりて事をもとむるに似ては外に
上下ひきくはそふはひき事よひとてさくきく唐土とて
程朱のあきくは外に道をもとむるに似ては古に
とれ既ち程朱の道にけいけい天下並世の後編定
て古にのりては朝鮮琉球などともなるに唐土とて
ひに國々皆そふはひき事よひ編の事とて 朝家のそふ
皆そふとてはひきくは唐土とてはひきくは改て
ひきくはひき事よひとてはひきくはひきくはひきくは

可なりとてはひき 朝家のそふとてはひきくはひきくはひきくは
ひきくはひきくは程朱の説の人々もひきくはひきくはひきくは
夫林道春をんてはひきくはひきくはひきくはひきくは
かひきくはひきくはひきくはひきくはひきくはひきくは
崇信とてはひきくはひきくはひきくはひきくはひきくは
かひきくはひきくはひきくはひきくはひきくはひきくは

歴史

二十一史ハ度博として卒読おらんゆりて温公通
鑑朱子綱目ハ歴代治乱真廢の點考つかりん此上

わく書とてあつて正史の如くハ史記の如く漢書唐書
五代史ハありとあり然中李唐ハ 朝家の治ちの
を以て代りハ殊にそのを以てしんくもや此外國
唐鑑貞觀政要唐六典皆有用の書とあり

經濟書 類編書

杜祐通典文献通考ハ經濟の要書ハ大學衍義并
衍義補ハ修身治國の道經史の如くしんくもや此
を以てしんくもや此外國

文集

名臣奏議陸宣公奏議家集ハ范文正公司馬温公二程

朱文公等諸公の集次ハ歐蘇二家の集を以て涉獵

しんくもや此外國

天明八年八月日

幕府儒貞柴邦彦類首再拜記上

上近衛公書終

上近衛公書終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '天即入平八民...']

子姪林茶代帖書



三
子姪禁俳諧書
成島鳳卿

子姪禁俳諧書

子姪禁俳諧書

成島鳳卿 著

世に俳諧より一事の濫觴ハ連歌の流を承りて無下
 の凡卑なる詞をめぐりてはけきものなりて世に
 人らあつて世の上をさかさんとせよ其席の
 弁藻をよみてはては知識のあらはれしむる
 めに世に世に人の子をしてとて其おひよりの
 ちよきにまじりて遊君傾國のたふしに
 むらさか人ゆふのつひに

甘雨亭叢書別集 子姪禁俳諧書

三つ一俳諧のいふ狂言利口をいふは海ははるかに
 てふきりくもつなをいふ又いふは彼の一種さぬあふ
 止るは世にたつていふは今も風雅の姿をいふ俗
 言俗言をいふ是れん然るにいふんやあつて魂をいふ
 といふはいふはいふはいふは上下をいふ具をい
 ふを教の一種をいふ住吉玉津島のいふはいふは
 といふはいふはいふは又曰連歌の教といふ風雅の道
 といふは連歌の其風をいふ事をしていふはいふは
 のいふは連歌乃教といふはいふはいふは連歌の風
 雅といふは文字をいふはいふは昔松永氏乃
 歌をいふは読る秋林雑話をいふは定家卿をいふは
 玄音法印をいふはいふはいふはいふはいふは業
 といふはいふはいふはいふはいふは但歌の風雅
 といふはいふはいふはいふはいふは連歌といふは世
 といふはいふはいふはいふはいふは事といふはいふは
 といふはいふはいふはいふはいふは事といふはいふは
 といふはいふはいふはいふはいふは事といふはいふは

何をたてつくこと古きものハ流ハたれハ今ハ流をすくこと物や
 是れ名をぬきことつくりていふこと事なりけりきめくこと
 けり世古の事つくこと今先かき事をつくりて識りてく事ハ
 かく連歌なりて事ハあひたつはくことてしり歌山かきこと
 此道は考りて花ハ流のそひてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 けりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 只一時の哉ゆて其さしりて今のみしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 ものもくことしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 小僧保娘の春まかりて居尻しりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 きりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 しりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 ハさぬかきしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 ことしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 風流の事なりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 ことしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 なくことしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 すれハ六國なりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 と此内の一節なりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて

ありて比雅……賦頌……興等のありて……
 ……比のなす……賦のありて……
 ……のいひ……
 ……三経……
 ……の道……
 ……此集の事……
 ……抑風……
 ……二南の律……
 ……人情の執……
 ……錯綜……
 ……是を……
 ……其國……
 ……の細……
 ……此風雅……
 ……此一味……
 ……ハ花……
 ……風流……
 ……を風雅……

つゝ抑神明佛陀の...人の子の...
 何れも天地をうめ...鬼神と素と...の道力を...
 とび...感格さ...カのは...も...りや農暴...
 ...強さ...ん暴虎馮河の...盗跖...
 ...周孔の...海...え...
 感動さ...我...聖の道...
 清の風...佛の...法滅の時...
 ...や...の真感を...
 ...今...の國の人...
 ...の光...
 ...
 浅慮蠢側の...
 ...
 夫尾碑と...金石...無鹽...西施と...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

花より雨の其道の正しき相をかく梅の心を案のひ
 いふのふりさうさふれりあまのたけのひはくしんを
 ぬきよけあをそとくはらぬの糸よけさへ萎靡の満詞と
 事とせん其たう身をさしひかた媒も我れん致すあま
 りあま事もあつハらるりぬさうさうとあまのそま
 りあつらん七國七室の相とさへつららるる若く路とさつ
 流の今も絶えたりぬはくさうさうさうあまの御裳川の流
 らくはらぬ事とさうさう事とさうさう其の河のあまをさ
 かりあま事とさうさう事とさうさう大和歌の道をや
 歌の及こと俳諧の我ハ俳諧の我あまの物と終りさう
 さうさう事とさうさう水波の隔てはくさうさう
 水とさうさうのさうさうさうは我國々のけ
 水とさうさうの古今傳源氏の秘とさうさう下京極黃門卿
 未来記雨中吟をさうさうさうさうさうさうさうさう
 道とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

予は秋をむくふものかゝる事しつゝさかひりつなさをむく
 すゝたむのほのほの口惜しむるもさかひりつなさをむく
 ちる秋のむく事むくしつゝ事此道の假瑾もやと惜かむ
 少し何れも此のむく位さかひりつなさをむく御事しつゝの聲句を
 としつゝさかひりつなさをむくしつゝむねほのむくもむくは
 かなし事なむくしつゝおぬもさかひりつ冷泉家の御門下ろむく
 さをむくぬる冥加をむくはしつゝ堪能かむぬる身のむくもむく
 しつゝさかひりつ身むく五百生むくしつゝむくしつゝ稱しつゝ
 さかひりつむくぬるむくしつゝむくしつゝむくしつゝむくしつゝ
 むくしつゝむくしつゝ我の曹しつゝむくの俳諧しつゝ事なむくしつゝ
 けりしつゝむくしつゝ幽冥しつゝ八天の神國の神の御心しつゝ
 背さかひりつ御陰の冥助をやむくしつゝむくしつゝむくしつゝ

芙蓉道人

早稲田大学図書館

011888006399